

常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議議事録

と き 令和7年7月22日（火）
午後1時00分から

と こ ろ 常総市役所 議会棟 2階 大会議室

常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議会議録

令和7年7月22日（火）午後1時00分から第1回常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議を常総市役所議会棟2階大会議室に召集する。

会 議 日 程

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 委員照会
- 4 協議・報告事項
 - (1) 会長の選任
 - (2) 副会長の選任
 - (3) 議事録署名委員の選任について
 - (4) 総合戦略について
 - (5) 第3期総合戦略策定について
- 5 その他

出席委員	秋田 そら 荒井 久美 前田 正文	野村 和叶 北村 篤子 川島 宏一	鈴木 千彰 横島 智子 玉置 一真	岡野 一男 佐賀 ターニャ	中島 義昭 鈴木 信也	青木 大 菊池 太郎
欠席委員	渡辺 潤子	中山 奈央				
事 務 局	市長公室長 未来創生係長	小林 弘 松永 寛人	常創戦略課長 未来創生係	倉持 勝利 栗野 真実	政策統括室長	前島 淳

政策統括室長

本日はお忙しいところ、また、炎天下の中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから、第1回常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議を開会いたします。本日の司会を務めさせていただきます、常総戦略課政策統括室長の前島と申します。どうぞよろしくお願いいたします。初めに、お手持ちの資料の確認をさせていただきます。

・常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議次第

・総合戦略について資料1

・第2期常総市総合戦略の進捗状況について資料2

・第3期常総市総合戦略における施策案について資料3

資料がそろってるようですので次に進めさせていただきます。当会議は、常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議設置条例第6条において、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができないと規定されております。本日は常陽銀行の渡辺委員、教育委員の中山委員より事前にご連絡をいただいております。よって、委員総数18名に対し、本日の出席委員は、Web出席者も含めまして16名ということになりますので、会議が成立いたしますことをご報告させていただきます。なお、本会議については、公開を原則としており会議録を作成いたしますので申し添えます。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

本日は、現委員を集めた、最初の会議ですので、神達市長よりご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

市 長

改めまして、こんにちは。大変暑い日が続く中、土日には水海道祇園祭が終わり、今週末には石下の祇園祭が開催されます。また、選挙もあり、多忙な時期で皆さまお疲れ様でございます。今回は第1回の委員会となります。私の希望もあり、さまざまな背景を持つ委員を選任しました。目的は、常総市の最上位計画である「常総市総合戦略」を策定することです。この計画は、常総市の5年10年先の方向性を示し、企業でいえば企業理念にあたる重要なものです。これまでの5年間を振り返りますと、コロナ禍があったものの、道の駅常総やアグリサイエンスバレーの開業など、予想以上の成果がありました。さらにこれからの5年間も大きな変革が求められます。本日、本田技術研究所の方にも参加いただいておりますがAI技術の進展や当市を取り巻く環境も変わってきており、これを大きなチャンスだと考えています。特に、都心部の住宅高騰により、その受け皿として常総市が注目されています。圏央道を中心にアグリサイエンスバレー、新産業団地など、企業からの期待も高まっています。人口減少の中で、少子化や空き家などの課題も多いですが、これをチャンスと捉え、今後の5年後に向けたビジョンをしっかりと計画に組み込んでいきたいと考えています。市民がワクワクするような総合戦略を作り上げるために、委員の皆さまから忌憚のない意見をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

政策統括室長 ありがとうございます。ここで本日お集まりいただきました委員の皆様へ、1 人ずつ自己紹介を兼ねてご挨拶いただければと思っております。時間の都合上、大変恐縮でございますが、簡単にお願ひできればと思いますのでよろしくお願いいたします。名簿順にお名前をお呼びいたしますので、よろしくお願いいたします。

(各委員一人ずつ自己紹介)

政策統括室長 続きまして、協議事項に移ります。会議設置条例第 6 条により、会長が議事を進行することになっておりますが、まだ会長が決まっておりませんので、会議設置条例、第 5 条に持つに基づき、会長の選任を行いたいと思います。事務局案といたしましては、総務省の参与等をしてご活躍いただいた経験、また現在も常総市の政策アドバイザーを務めていただいていることから、筑波大学の川島先生にお願ひしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございます。それでは会長が決定いたしましたのでここからは、会長に議長をお願ひしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。神達市長はこの後別会議が入っておりますので、退席をいたします。

会 長 ただいま会長に選出されました川島と申します。どうぞよろしくお願いいたします。僭越でございますが、できるだけこの議論が活発にて有意義なものになるように、頑張っ参りたいと思います。それでは議長として議事を進めさせていただきます。まず、協議事項の 2 番として、副会長の選出についてでございます。私の方から、岡野市議におかれましては、常総市の最上位計画であります総合計画の策定時にご一緒し、その際は議長を務めていただいております。今回副議長に、私の方から推挙させていただきたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

(異議なしの声)

会 長 それでは岡野委員どうぞよろしくお願いいたします。次に、会議録署名委員を決めさせていただきたいと思います。会議録署名委員につきましては議長において指名させていただいてよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

異議なしということで承りましたので議長において指名させていただきます。まず、市議会議員の中島様、筑波銀行の菊地様、以上 2 名を指名いたします。後日、事務局が、この会議の議事録を持って伺いますので、内容をご確認いただき、ご署名をお願ひしたいと思います。よろしくお願いいたします。それでは議事を進めさせていただきます。

- 会 長 協議報告事項 4、総合戦略について、まず事務局よりご説明をいただきたいと思います。
資料に基づきましてご説明のほど、どうぞよろしくお願いいたします。
- (事務局 説明)
- 会 長 ただいま事務局から説明をいただきました。計画期間は 5 年間、ということですね。それから、このまち・ひと・しごと創生総合戦略は将来的には常総市の総合計画に包含予定、検討しているとそういう位置付けというふうに理解いたしました。まず事務局からの説明に対して何でも結構ですので、質問、或いはご意見などございましたらば、自由にご発言いただきたいと思います。オンラインの方も、どうぞ。どなたかいかがでしょうか。前田委員、いかがですか。
- 前田委員 総合戦略の名称についてですが、「第 3 期総合戦略」というのは決定でしょうか。
形式に縛られずに自由に名前をつけても良いのでしょうか。
- 事務局 自由に設定はできます。国から標準的な名前は示されてはいますが、地域の実情に応じて定めることができるとされております。常総市らしさが出せるものがあっていいのかなというのは我々も思うところでございます。
- 会 長 国に何かお金が、必要などときには国に気に入られるような名前を表看板としては付ければいいので、実質はちゃんとした深い議論ができたほうがいいんじゃないかなと思いますね。そのほか、いかがでしょうか。鈴木委員お願いします。
- 鈴木(千)委員 秋田さんと共に石下プロジェクトで、約 1 年半いろんな活動をしてまいりました。約 2 年半前に都内から常総市に移住し、現在市内の企業に勤めていますが、東京都とはあまりにも違うので最初は戸惑いました。石下プロジェクトで活動してきて、3つの課題があると思いました。1 つ目は、リーダーの育成です。2 つ目は何かやるときに必ずノウハウがないと実行できないということ、そして3つ目が継続的に行うためにはお金が必要ということです。この 3 つをうまく組み合わせながら活動していかないと、継続的な成功がありえないんじゃないかと考えました。どこの地方も高齢化で、若年層が逃げていき、そして外国籍の人が多くなるという共通点があります。現在この 3 つの層に合わせて、様々なイベントを行っており、わかったことがあります。やりたいことがあってもやる場がない、ノウハウがない、そしてお金がない。活動の中で皆さんから意見を聞きながら進めてきましたが、大きな流れはもうほぼ決まってると思うんですけれども、その中でも、どうすれば皆さんが満足するような形に持っていけるかということを、ぜひ議論をしていきたいと思っております。石下プロジェクトの活動は、ウェブサイトを見ていただければ大方お分かりいただけるかと思います。皆様のお知恵とお力をお借りしながら、この総合戦略を立てていただけたらと思っています。
- 会 長 ありがとうございます。ウェブサイトを見ますと、石下プロジェクトの活動内容は、学生さんと自習するカフェを作ったり、ヨガの教室、英会話など地域の方々のお悩みのある場所を使って企画、学生さんや地域の方々を巻き込んで、問題解決の議論をして助けるということでしょうか。ボランティアでしょうか。

鈴木(千)委員	一言でいうと町の活性化をしたいということです。その方法として、学生の学習の場、英会話そして歴史の講座なりジャンルは全然別なんですけども、共通点があって、参加した人から口コミが起こる事例をいくつも我々見てきたので、そこをうまく活用したいと考えております。最初は全部ボランティアで、持ち出しで行っておりました。その中で活動が認められ、4月からは市の補助金をいただいて活動しているという状況でございます。
会 長	ありがとうございます。大変勉強になりました。この後また具体的な戦略づくりの中身についてのお話はありますけれども、今ご説明いただいた総合戦略の国の動き、県或いは市のこれからの動きについて、何かご不明な点などございますか。岡野委員お願いします。
岡野委員	1点確認があります。この総合戦略は計画期間が5年間ということでしたが、資料をみますと2028年から総合計画の方に包含する予定と書かれております。私どもがこれから成果品としてあげるものは、3年目からは総合計画に移行し、総合戦略はなくなるという理解でよろしいのでしょうか。
会 長	先ほどの説明では、総合計画の作業が始まる段階で、総合戦略を取り込む方針ではあるけれど、それについてもこれから検討、詳細は決まっていなかったということでしたね。
事務局	ここ最近のトレンドを見ますと、茨城県、守谷市などでも最上位計画である総合計画に総合戦略を包含してしまうという流れがございます。それはもともと総合計画から、人口減少・地方創生に関するところを抜き出したものが総合戦略となっているため、重複してる部分が多いからです。一方で、千葉県流山市のように実施計画を総合戦略としている自治体もありまして、ここは非常に言及が必要だと思ってます。また先日総合戦略をマーケティングツールとして使うのもいいのではというお話がございました。総合戦略は未来の設計図でもありますので、それを読んだ人、企業が、常総市いいね、常総市に住んでみたい、投資・進出してみたいと思えるような内容にしてもいいのではというアドバイスをいただきました。総合計画を作るのは常創戦略課の別の係になりますが、連携しながら研究を進めていきたいと考えているところでございます。
会 長	他にご質問はございますか。それでは次に移りまして、すべての資料をご説明いただいてから、また全体として討議いただきたいと思います。協議報告事項の(5)第3期総合戦略策定について事務局の方からご説明をお願いしてもよろしいでしょうか。
	(事務局 説明)
会 長	事務局からも説明があった通り、今回の総合戦略は市の最重要プランであり、市全体に大きな影響を与える非常に重要なものです。これからの5年間を決定づける大方針であり、皆さんの生活や仕事、暮らしにも大きな変化をもたらすものになるでしょう。この計画の基本的な流れとして、目標の順番や施策の整理、アグリサイエンスバレーの整備が完了し、次のフェーズに進むことが説明されました。それ自体は重要ですが、もっと大切なのは、皆さんが5年後の常総市をどのような未来にしたいかという具体的なビジョンです。市長からも、5年後の常

総市の景色を描いて欲しいとありました。これは既存のトレンドだけで決められるものではありませんが、皆さんがどのようにこの町の魅力的をアピールしたいか考えてほしいと思います。また市民がワクワクするような計画を作ってほしいとのことでしたが、市外の人々に常総市の魅力を伝えるようにしないと勿体ないと思います。常総市は北関東で有数のポテンシャルを持っており、圏央道やアグリサイエンスバレー、広大な農地など、魅力的な要素が揃っています。先ほどの報告でも転入超過、また子育て世代が増えている点には注目すべきです。若者世代が増えていることはこれまでとは異なる傾向なので分析が必要だと思います。経済的に豊かで、生活の質が高い町を目指し、市民が誇りを持って長く住み続けられる町にすることが重要です。町づくりに貢献したい人々が多く、そのような活動は人間の幸福感を高めます。農業の発展可能性についても、常総の特産品やブランドを作り、それをPRすることでマーケットを動かす力があります。計画を作るだけでなく、具体的にどのように動かすか、どうやって他の人に説明し、魅力を発信していくかが重要です。この総合戦略を進めるにあたって、皆さん自身がどこでどのように関与するか、メッセージを伝えるかが大切です。限られた時間を有意義に使い、忌憚のない意見を出し合っていきましょう。横島委員いかがですか。

横島委員

防災に関して、水害から10年が経ちましたが、障害のある方々が安心して暮らせる環境は、正直あまり改善されていないと感じています。例えば、防災訓練に障害者の方が参加できていない現状がありますし、ダイバーシティ&インクルージョンを推進すると言っても、手間や費用がかかるため、実際にはなかなか進んでいません。障害者の避難支援や、どうしても避難するための場所を確保するための配慮が不足していると感じます。それから、国の方でも個別支援計画が進められていますが、実際に障害のある方々にどれくらい計画が作られているかというと、私が聞いた限りでは1人もいなかったんです。ボランティアの方々にも聞いてみましたが、手話通訳の方々でさえ、この活動や計画があることを知らなかったという反応がありました。支援者側がそういった計画について理解していないというのは、ちょっと驚きでした。市民全体に知れ渡っていないことが、障害者支援の構図を難しくしているのだと感じました。また、地域コミュニティの強化についてですが、地域内での支え合いには、障害を持っている方々がどのような支援が必要かをお互いに理解し合うことが不可欠です。市民活動が活発な地域では、自然と交流が多く、そういった地域コミュニティの維持強化が障害者支援に直接的に繋がっていると思います。市民活動への支援が地域の絆を深め、最終的には障害のある方々を支援する体制が強化されるのではないのでしょうか。

会 長

ありがとうございます。この問題は、ご指摘の通り、地域社会が助け合うっていう活動を、より力強く、何か変わっていく必要があると思いますしそれに対する市の支援が必要だと思います。まさに伝わっていないというのは、非常に一番痛いところであり一番難しいところです。ただしここは、ICTとかデジタルがすごく効くところですので、テクノロジーにも期待できるんじゃないかというふうに思います。前田委員いかがですか。

前田委員

基本目標4の3に「多様な人材が活躍できるまちの実現」とあり、その後ろに①「ダイバーシティ&インクルージョンの推進」とあります。これにEnvironment BEIとよく言われるものを入れてはどうかと思います。なぜなら、その下にある「DX・GXの推進」のGXはグリーンエネルギー、エネルギーに関する内容であり、上の目標は人材育成、多文化共生、男女共同参画など、両方に跨っているため、意味合いを区別する必要があります。

会 長	ありがとうございます。ダイバーシティ&インクルージョンの視点の中には、環境の視点も、それとあわせて、政策の塊にしたほうがいいんじゃないかというご意見ありがとうございます。そのほか秋田委員お願いします。
秋田委員	私は大学３年生で、特に「子どもまんなかまちづくり」に関心を持ちました。また資料を見て、子育て世代が増えていることに驚きました。一般的に、人口が減少するのは大学生になる１５～１９歳、２０～２４歳の年齢層ですが、私は東京大学に通いながら地元で活動しており、同じように外に出ている学生が常総市で活動しているケースも多いです。現在の施策は小中学生向けが中心ですが、大学生が常総市と関わり続ける方法を考えることが重要です。例えば、ICTを活用して物理的に離れていても心理的に常総市とつながり続けられる仕組みを作ることが、人口維持に貢献すると思います。また、「教育環境の充実」という項目について、もう少し具体的な内容を盛り込むべきだと感じました。例えば、あすなろの里や豊田城などの施設の活用、学校のハード面だけでなく、ソフト面での施策も検討すべきです。学生が地域活動に参加することで、地域の大人たちから刺激を受け、ノウハウを学ぶことができます。これが学生にとって、常総市に残りたい、地域に貢献したいという意欲を引き出すきっかけになるとと思います。昨今よく言われているアントレプレナーシップ教育のように、若者のチャレンジを応援する環境づくりが教育環境の充実に必要だと感じています。
会 長	ありがとうございます。若者にとって、地域の課題を解決してそれを事業化することは、社会人としてその後の成長する上で非常に貴重な学びの機会だと思います。企業でも、組織の中で人材が学んでいき、イノベーションを生み出すと言われていますが、実はコミュニティも学ばなければなりません。コミュニティの中で人々が高いノウハウを共有し合い、新しい解決策を作り出すことが大切です。近年、日本ではこのようなコミュニティでの学び合いや協力が薄れてきているように感じます。企業で働き、家では子育てや介護を他に任せることが多くなっています。過度に政府や外部機関に依存する傾向がありますが、実際の支援ノウハウを地域内で共有し、若者が挑戦できる環境を育てることが重要です。この視点をぜひ取り入れていただきたいと思います。菊池委員お願いします。
菊池委員	資料③－２の基本目標４にある『PPP/PFIの推進』は、民間の資金とノウハウを活用する取り組みを指しており、特に住宅の耐震化や公共施設のマネジメントなどで民間の力を使うということだと思われます。一方で、基本目標２の『吉野公園の活用』や『空家等バンクの活用支援事業』でもPFIの活用が可能だと考えます。例えば、茨城県では、公園事業や町中の再生に対して多額の予算をつけているものの、管理が行き届いていない部分もあります。そういった事業を公募し、資金やノウハウを持った民間企業と連携し、特別目的会社（SPC）という法人格を作って資金を集め、民間の知見を活用する仕組みを作ることができます。そのため、住宅や賃貸物件だけでなく、他の事業にもPFIを活用することで、行政と民間の間の壁を低くし、新しいノウハウを市や町が取り入れることができれば、地域がより良くなるのではないかと考えています。
会 長	大変素晴らしいご指摘だと思います。今の整理を見ると、PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）が住宅の耐震化だけに関連しているように見えますが、実際にはあらゆる施策に関わる可能性があります。例えば、公園や空き家、道の駅関連、

さらには農業など、どの分野にも活用の余地があると思います。民間の資金ノウハウをどのように組み立てるかが重要なポイントになりますが、そのためには実際にオーガナイザーが必要です。その力を、どこから引き出すか、あるいは内部でどのように育成するかという点については、銀行などのノウハウが活用できると思いますので、ぜひとも協力して進めていただきたいと思います。ありがとうございます。

玉置委員

本田技術研究所の玉木です。まず、コメントを3点挙げさせていただきます。1点目は、資料③-2の一番下にある「DX・GXの推進」についてです。弊社が取り組んでいるまちづくりも含まれていると思いますが、DXという言葉は、どちらかというとマイナスからゼロにして効率化するという意味合いが強いと思うんです。そういう意味では、このお題目としては少し違和感があったというか、むしろRPAを使った業務効率化というイメージに近いのかなという印象を持ちました。次に、2点目ですが、インフラのアップデートに関する話が少なかった点です。例えば水道や電気、インターネットなど、今後の市政の維持には非常に重要な部分だと思いますので、こういった点も計画に入れても良かったのではないかと感じました。3点目としては、道の駅について市民感覚とのずれを感じる部分がありました。道の駅の整備が完了したという話がありましたが、実際には、出店者側としてはまだ整備が完了していないと感じています。例えば、駐車場の不足や駅からのアクセスの悪さ、トラックのルール無視など、問題がいくつかあります。これを「整備が完了した」とするには、まだ途中段階ではないかという印象を持ちました。こうしたズレがなぜ発生するのかを考えたとき、資料の中でも現状の分析がされていますが、なぜそうなっているのかという理由まで深掘りが足りていないのではないかと思います。現象としての問題は示されていますが、その背後にある理由をしっかりと分析しないと、次の目標をどう設定するかが見えてこないのではないのでしょうか。最後に、個人的な提案として、常総市の市役所職員の働き方改革もぜひ取り入れていただきたいと思います。いろんな自治体に関わっていますが、常総市の職員は本当に多忙で、営業マンのように企業誘致を行い、地域のお祭りにも参加し、さらには鳥インフルエンザの処理まで行うなど、働きすぎの感があります。一方で、使用しているPCや会議設備が十分ではなく、代休も取れない状況が続いていると聞きます。これでは、まちを維持していくための最も重要な人材である職員の働き方改革が進まないと、結果的に市政全体に影響が出てしまうと思います。データサイエンティストのようなプロフェッショナルが市役所に入ることも、市の運営を良くするためには必要だと思うので、そのためにも職員の働き方改革が不可欠だと思います。最後に1点質問させてください。おそらく行政的にすべてを満遍なくカバーしようという立ち位置だと思いますが、財政面や実行可能性の観点から、全てを実現するのは難しいというのが正直なところだと思います。その中で、優先順位を決める段階はどのように進められていくのでしょうか。

事務局

正直に申し上げますとすべての事業を実現するのは難しいです。財源の問題もあるため、まずは5年計画の中で実行可能な事業を選定する必要があります。財源が確保できる、例えば企業版ふるさと納税などで資金調達ができる事業については、最優先で実行することが可能です。また、補助金が利用できる事業については、単費だけでなく補助金も活用し、実施していく形になります。ただし、全ての事業が実現できるわけではないため、常総市に足りない部分や必要な事業については、財政面を考慮しつつ、予算要求していく必要があります。最終的には、担当課が調整しながら進めることになりますが、全てを実現することは難しいと考えています。

会 長	資料 2 に記載されている KPI(成果指標)について、もう一度振り返るべきだと思います。ただし、できなかったことがそのまま問題だと捉えるのではなく、できなかった理由をしっかりと分析することが大切です。例えば、指標自体が誤っていた場合や、予期せぬ要因で達成できなかったということもあるはずです。そのため、単に“できなかった”と評価するのではなく、その背景にある事情を十分に考慮し、次に活かせるような形で整理する必要があります。また、KPI を定量的で客観的な数字に基づいて設定することが非常に重要です。それによって、関係者全員が同じ目標に向かって協力しやすくなりますし、市民や関係者も自分ごととして意識し、責任を持って取り組むことができます。これをやることで、市役所だけではなく、全員が共有し、納得しながら進められるようになります。ですので、KPI を設定する際には透明性が欠かせません。「サクッと決めてしまおう」とするのではなく、しっかりとした議論を経て、納得感のある形で進めていくべきだと思います。さらに、最近よく言われる「EBPM(証拠に基づく政策立案)」という考え方にも関連しますが、政策を進めるには、エビデンスに基づいた意思決定が非常に大切です。KPI を設定する際には、そのエビデンスをどう集め、どう活用していくかが鍵になります。最後に、プロジェクトマネジメントの話ですが、政策や事業を進める際には、必ずマネージャーを決めて、進捗や問題点をきちんと報告し合う仕組みが必要です。KPI の動きを見ながら、何かうまいかない時にはその原因をしっかりと特定し、みんなで協力して解決策を見つけていくことが大事です。行政においても、民間企業のように、透明で明確なプロセスを重視し、政治的な駆け引きに左右されずに進めていくべきだと思います。ですので、このあたりはぜひ、今後進めていく上での大事なポイントとしてご考慮いただきたいと思います。青木委員、お願いします。
青木委員	この 5 年というスパンでは難しいかもしれませんが、個人的にこういう施策はどうかと思っていることがあります。私としては常総市が東京に近い立地の利点を活かして、例えば美味しい米や野菜などの特産品を提供することで、地域の魅力を引き出すことができると思います。特に東京や羽田空港から 1 時間以内にアクセスできる点は大きな強みです。ただ、私自身が住んでいるつくばみらい市から都内に行くときは最寄り駅を利用しますが、常総市からの場合は守谷駅までは車を利用していて、乗り換えなしでアクセスできる交通手段が欲しいと考えています。もしこのようなインフラ整備が実現すれば、人の流入が増え、地域にとって大きなメリットとなるはずです。今後、常総市がつくばみらい市のように子供が増え、賑わいのある街に成長することを願っており、そのためにも交通インフラの改善が重要だと思っています。
事務局	常総市には、東京直結の鉄道計画として地下鉄 8 号線のルートがあり、北端の方を通る案があります。ただし、これはまだかな先の話で、5 年後や 10 年後の実現は難しいかもしれません。東京直結に関しては、配線の問題などもあり、現実的にはすぐには難しい状況ですが、完全に可能性がないわけではありません。現在の常総市からの距離を考えると、石下地区の崎房あたりが対象になるのではないかという印象です。
会 長	流山市に 3 つの駅ができたのは、やはり当初の市町の働きが大きかったとよく聞きますですね。そういう意味で、超長期に取り組む重要な課題だと思います。その他にございませんでしょうか。北村委員、お願いします。

北村委員	基本目標3「稼ぐ地域をつくる」の具体的施策に「雇用対策の促進」とありますが、この雇用対策というのは、働く人に対してのものか、それとも企業側への支援でしょうか。特に製造業は人手不足が深刻で、廃業する企業も増えていると聞いています。当社でも雇用の確保は非常に難しい状況です。ハローワークで募集を出しても常総市からの応募は少なく、社員 40 人のうち 5 分の 1 ほどが常総市の方だと思います。いろいろな職種で採用を進めていますが、茨城県の最低賃金を見ながら、それを上回る水準に設定するように努めています。つくば市や埼玉、千葉の製造業とも賃金面で競争しなければならず、中小企業としては、年間休日を増やすなどの努力もしています。どうすれば雇用を確保できるのかは企業にとって非常に大きな課題です。働きやすい地域づくりももちろん重要ですが、地域が稼ぐためには企業が元気でなければなりません。雇用対策については、働き手に対する支援だけでなく、企業側の視点にも立った両面からの施策をお願いしたいと思います。以上です。
会 長	ありがとうございます。非常に重要な抜けている視点をご指摘いただきました。多くの方も同じように感じていらっしゃると思いますので、ぜひその点について認識していただきたいと思います。鈴木委員、お願いできますか。
鈴木(信)委員	鑑定士として土地取引に関わる機会が多いのですが、国交省の土地取引に関するアンケートには、ある程度ポテンシャルがあるヒントが隠れているように感じます。市内で取引価格が高いエリアはやはり南の地域で、特に産業用地が注目されています。実際には、水海道市の中心部よりも高い価格が提示されていることもある状況です。事務局が言うように、やりたいことがあっても税収の面で規制をかけざるを得ない部分がある中で、土地を通じて税収を得られれば、やりたいことも実現できるのではないかと思います。住宅地だと軽減税率がかかるため、税収が直接的に見込めませんが、産業用地であれば、ダイレクトに税収を得ることができます。今回、ヤクルトスロウズの二軍球場が常磐道の守谷サービスエリアと連結される場所に整備される予定で、これに合わせて都市計画道路の整備も進められます。この縦のラインは非常に高いポテンシャルを持っていると、すでに多くの方がお気づきだと思います。実際、坂手工業団地や内守谷工業団地では、産業用地創出に向けた官民連携が進んでいると感じていますが、さらにその拡大を考えていただけるとありがたいです。また、資料③の 2 の E 列にある「主要幹線道路の円滑な交通」については、少し抽象的に感じるので、具体的な方向性や整理が加えられると良いかと思います。以上です。
会 長	ありがとうございました。産業用地は固定資産税が長期的に安定して入るため、財政的にも良い影響があると思います。そういった意味でも、土地の問題が市全体の会計や財務に与える影響は非常に大きいと感じています。今いただいたご指摘についても、できるだけ留意しながら進めていきたいと思っています。では中山委員から順番にご発言をお願いします。
中山委員	私は農業を営んでいますが、小規模で生き残っていくのが非常に難しい現状です。周りを見ても、お父さんやおじいさんの代から受け継いで続けている方々はいませんが、新規に小規模で農業を始める人は非常に少ないのが現実です。お金の面でも厳しく、資材が年々高騰しています。そのため、自分なりにブランドを作り、農園の味で勝負しようとしています。小規模農家に対する支援や補助が必要だと感じていま

す。農業をやりたいという人はいるものの、実際に続けられる人は少なく、数年で辞めてしまうケースが多いです。また、子育てについて市内のイベントが少ないと感じており、農業と合わせた食育活動も行っています。石下プロジェクトに協力していただいたりして、子ども向けのイベントを立ち上げたりもしました。しかし、お金の面や、活動の継続には非常に大変な労力がかかります。同じ方向性を持った仲間と協力することで継続が可能になるのではと思います。昨年、ハロウィンイベントを行った際には、子どもたちにフォトスポットを作ってもらい、写真を撮るブースを設置したり、事前にスタッフを募集して、当日は子どもたちに店員体験をしてもらったりしました。意外にも多くの応募があり、イベント自体にはかなりの需要があることがわかりました。地域において子どもたちが参加できるイベントが少ないと感じており、親もやらせたいことが多いと思います。そういった視点を取り入れていけば、もっとワクワクする町になるのではないかと思います。

会 長 イベントを通じて普段会わない人と交流したり、違った意見をもらうことで、その場で何かがすぐに起こらなくても、後々その関係性が生きることとはよくあることです。ですので、イベントの重要性についてはご指摘の通りだと思います。ありがとうございます。中島委員、お願いします。

中島委員 私には好きな常総市のキャッチフレーズがありまして、「なんかいいかも、常総市」もう一つは「あの人がいるから、この町が好き」というものです。これは私が市議会議員になり、まちづくりをやりたいと思ったことにも合致しています。今、流行っている町や人が集まる町を見ると、例えば浅草などが近い例ですが、地域に根差した文化や地域資源を大切にしているところには、若者が集まっています。浅草も江戸の文化が残っているという点で、郷愁を感じさせる何かがあって、人が集まってくるんですよね。私自身、この町で生まれ、繁栄している時期や衰退している時期も見てきました。やっぱり「人がいるから」、「ものがあるから」、「会社があるから」、町が好きだと思える場所があるんです。そのため、町づくりにおいては、一つ一つの施策が繋がっていき、街全体が良くなっていくと信じています。そういった方向でやっていきたいと考えています。以上です。

会 長 ありがとうございます。やっぱり固有名詞が大切ですよ。僕もお煎餅の大好きなブランドがあります。そういうふうには町が元気になるってありますよね。岡野委員、お願いします。

岡野委員 基本目標の4番目に「ひとが集う」という項目がありますが、人が集まるためには、まず基本的に「足」の確保が重要です。現在、足の確保が非常に不足しているということで、年配の方々からは多くの苦情も寄せられています。特に、公共交通ネットワークの整備が重要だと言われていますが、常総市は面積が123平方キロメートルもあり、北から南に行くには30分から40分ほどかかる広さです。この問題を解決するためには、交通体系の整備が最も重要だと私は考えています。地域経済の活性化がよく言われますが、やはり「足」がなければ、人は動きませんし、人が集まらなければ活性化も進まないという実感を持っています。現在、市では市民と共に考える課が、コミュニティ協議会を3年間の準備期間を経てスタートしました。補助体系も整い、今年から実施されています。こうした取り組みも含め、地域のコミュニティ組織と連携しながら、足の確保を進めていければ、少しずつ解決できるのではないかと考えています。儲かる事業は民間にお願いし、儲からない事業であっても市民のために必要なものは、これまで行政が行ってきました。これからもその姿勢を継続してほしいと思っています。足の確保というのは、確かに儲からない事業かもしれませんが、積極的に進めていくべき課題だと感じています。そして、5年後には皆さんが集まるような町を目指して、これからも取り組みを進めていただければと思います。次回の会議でもこの点についてしっかりと検討していきたいと思っています。

- 会 長 この交通体系の整備とコミュニティ形成を一緒に進めていくことは、今の社会の大きな流れに沿った重要な課題だと思います。確かに難しいことではありますが、どちらか一方だけでは成り立たない部分があると思います。すべて税金で賄うのは難しいでしょうから、地域の方々とどのように協力していけるかが大きなポイントになってくると思います。それでは、鈴木委員、お願いします。
- 鈴木(千)委員 皆様のご意見を伺って、我々もまだやれることがたくさんあると感じました。特に、道の駅から市内の店舗に結びつけるという点は、私個人の課題として挙げていたことです。今後、どう進めていけばいいかを、これまで交流があった方々とともに、いろんなケースを考えながら進めていきたいと思います。ちょうどこちら、資料 3-1 真ん中あたりの部分にもありますが、やはり「還流」は経済的にも非常に重要な要素となってくると思いますので、この点にフォーカスして、取り組みを進めていきたいと考えています。
- 会 長 ありがとうございます。鈴木さんの方からも、コミットしていただいて、その道の駅から人を、市内のいろんな企業、企業とか小売店とかに導いていただくともうぜひこの、総合戦略の中でリードしていただけるとありがたいと思います。最後に野村委員お願いします。
- 野村委員 意見というより疑問になりますが、移住者を呼び込む、そして関係人口から定住に繋げるという点についてです。やはり、常総市は車社会であるため、車を持っている方に限定されてしまうのではないかと感じています。もちろん、ジョイバスなどもありますが、道の駅などの目的地があっても、そこから市内の様々な場所に繋がるためにはやはり車がないと移動が難しく、生活するためにも車が必要です。観光大使として市外のイベントで常総市のことを PR する際にも、例えば「秋葉原から 40 分、1 時間もあれば着きます」と言っても、それは駅までであって、駅から先は車が必要になってしまうため、どうしても足が遠のいてしまうという現実があります。実際、道の駅常総の「お湯むすび」のサウナイベントでも、東京から来た方が駅からどうやってくるのか分からず、かなり歩かれたという話を聞きました。そういった点が課題であると思います。
- 会 長 実体験に基づいた貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。本田さんが現在進めているプロジェクトにも連動する部分があると思いますので、こうした意見を出していただくことで、今後の計画に活かせるのではないかと思います。ぜひ、こういった議論をさらに深めていただきたいと思います。今回は 10 月 16 日ですね。もし今日ご発言が十分でなかったり、まだご意見を伝えきれていない方がいらっしゃいましたら、7 月中に事務局にメールで送っていただくのも良いかと思います。そして、このプランは市役所の 5 年後、さらには将来の市の方向性を決める非常に重要なものです。皆さんの知見が、将来の市民生活の豊かさに大きく影響しますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。最後にウェブ出席の方々お願いいたします。荒井委員よろしいでしょうか。
- 荒井委員 資料をみると、保育環境の充実などがありますが、高学年の子どもに関することが少ないように思います。また、医療体制の強化というのがありますが、他の市に比べて常総市は医療費の助成が充実していないように感じています。

会 長	ご指摘ありがとうございます。高学年の子育てと、医療費の助成の問題は、財政的に大きなインパクトのある問題なので、慎重な検討が必要ですが、配慮すべきだと思います。それでは最後に佐賀ターニャ委員お願いします。
佐賀ターニャ委員	常総市は外国人が多いと思います。そのなかには日本語を勉強されている方もいます。日本語教室など、日本語を学ぶことに対して支援が必要だと思います。それにより市役所であったり、地域の方とのコミュニケーションがうまくいくようになると思います。
会 長	ありがとうございます。非常に重要なご指摘だと思います。お時間になっていしましたが、今日の議論の中では必ずしも発言できなかった内容もあると思います。できましたらそういった内容を今月中に事務局の方に届けていただけるとありがたいと思いますので、ぜひ遠慮なくどんどんお寄せください。よろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。それではここで事務局の方に進行を戻させていただきます。
事務局	川島先生ありがとうございました。次第に従いまして 5 その他に移らせていただきます。事務局より今後の予定についてご報告させていただきます。次回のまち・ひと・しごと創生総合戦略会議につきましては、10 月 16 日木曜日午後 2 時より、事務局より素案をご提示させていただく予定としております。正式な通知は概ね 1 ヶ月前ぐらいに送付いたしますので、恐れ入りますがご都合等ご調整よろしく願いいたします。本日の議事はこれですべて終了となります。以上をもちまして第 1 回常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議を閉会いたします。本日は忌憚のないご意見いただきまして、本当にありがとうございました。

(15 時 15 分 会議終了)

上記の議事の正確なることを証するためここに署名する。

令和7年 8 月 7 日

常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

会 長 川 島 宏 一

署名人 中島義昭

署名人 菊池 太郎